

審査の結果の要旨

氏名 孫立

中国では、市場経済化政策による経済発展の一方、地域間の所得格差の拡大による農村からの出稼ぎ労働者（農民工）が主体である都市低所得者層の急増は都市経営上の大きな課題となっている。とくに、近年、流入した農民工たちの主な受け皿として、中国都市においても、「城中村」（都市の中の村）と呼ばれている都市現象が生まれ、1990年代以降、大・中都市における普遍的な現象となってきている。一方で、多くの中国都市の都市開発政策は、再開発重視へと転換しつつあり、経済発展した都市では、城中村に対する住環境整備・再開発事業が次々と登場している。このような背景のもとで、本研究は、中国都市における城中村現象とその住環境整備の実態を明らかにし、今後の低所得者地域の住環境改善の方向性について検討を加えることを主たる目的としている。

研究の方法は、現地短期滞在観察、インタビュー・アンケート調査、政府・専門家・居住関係者訪問インタビューであり、インタビュー調査は政府関係者 30 人程度、学者・専門家 20 人程度、城中村のリーダー、村民、借家人、周辺市民、一般市民 50 人程度に対し、アンケート調査は重慶市における 300 世帯、深圳市における 450 人に対して行った。本論文の概要は以下のとおりである。

第 1 章では、城中村の概念に関する文献レビューを行い、中国の東・中・西部の三つの経済地帯から選定した 8 つの典型都市における城中村の資料の分析を通じて、城中村全体としての類型、規模、特徴などの実態を把握している。第 2 章では、城中村形成の背景とそのメカニズムについて論じ、城中村形成全過程の流れ、形成メカニズムを解明している。第 3 章では、アンケート調査を通じて、特定地域について低所得者地域の住環境の現状と、居住関係者の住環境改善意識を解明している。第 4 章では、西安市における完成事例へのケーススタディを通じて、撤去・再建型住環境整備事業の実態について考察を行っている。第 5 章では、漸進改善を主軸とする住環境整備が行われている深圳市の城中村政策、完成事例の状況が考察されている。第 6 章では、深圳市における各類型事業の完成事例地区を調査対象地区として、居住者に対するアンケート調査を通じて、それぞれ事業効果を把握しながら、各事業の効果を比較している。最後に第 7 章において、本研究より得られた知見に基づいて、今後の城中村の住環境整備のあり方についての総合的考察を行っている。

本研究により得られた知見を以下のようにまとめることができる。

- (1) 中国都市における城中村は、中国の急速な都市化、中国における二元体制の存在という社会背景がその形成・続きの必要条件であり、両者の総合作用による結果である。
- (2) 改革開放以来の急速な都市化による都市の新規低所得者の激増により、ここ数年

その受け皿としての「城中村」が生まれてきた。

(3) 中国独特な都市・農村分割の二元体制の存在により、他国とは異なり、中国都市における低所得者地域が城中村という形で現れてきた。

(4) 今まで見られる城中村整備事業には、撤去再建型も漸進改善型も両方とも存在しているが、殆どの都市では撤去再建型のみの中村整備事業が行われている。事業の主導主体によれば、政府主導型、市場主導型、村主導型、連携主導型がみられる。一方、先進的な事業として、深圳市では漸進改善型事業が開始された。

(5) 撤去再開事業では、物的住環境の徹底的改善、村民の生計維持・向上の問題をうまく解決することができる一方、低所得者の借家人の住み続きを難しくさせ、社会公平、都市発展の後続力などの問題をもたらしている。

(6) 一方、漸進改善型整備事業では、城中村の基本的な住環境問題を解決した上で、その廉価賃貸住宅地の機能を活用できるような住環境改善事業であり、バランスよく各主体の利益を守れる面が評価されるが、今までの政府主導によるこの漸進改善事業を、今後、如何に住民主導により持続的に展開させていくのか、重大な課題となっている。

以上の知見に基づき、さらに、本論文は今後の城中村整備のあり方として、廉価賃貸住宅地の性質を維持しつつ、低所得者である居住者を満足させるような住環境整備を推進すべきこと、今後の城中村の対応策の方向性として、従来のルールに基づいて村の建設管理を強化するよりは、中国の都市化の実況にあわせて都市住宅地域として整備していくべきこと、既存村民による改善市街地の維持管理の制度的枠組みを整えるべきことを提言している。

本研究は、中国型の都市低所得地域である城中村を対象都市として、中国の各代表都市における状況を把握した上で、現地生活者に対する調査を行い、さらに、先行都市における整備政策・事業手法に対する評価、各類型事業実施による改善効果の比較を行ったものであり、他に類例のない先駆的研究であり、学術的に優れた価値を有していると同時に、城中村地域の改善を進めるにあたってきわめて有益な提言となっている。

よって本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格と認められる。